

令和3年度研修振り返り

【 低学年 】ブロック

内容	成果	課題
振り返りの電子化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• みんなで共有できる。</li> <li>• 意欲付けになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 時間がかかる。(作業、アプリを開く)</li> </ul>
授業スタイルの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 意欲的に学習するようになった。</li> <li>• 視覚に訴えるので理解がしやすくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 時間がかかる(ノートを中心に行ったため)</li> <li>• タブレットで入力するのではなく、自分で書いたり線を引いたり が低学年では重要なことだと考えるので、ノートははずせない。</li> </ul>
ICT 活用 学びの系統表	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 指導の道筋が分かりやすかった。(ICT 活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学びの系統表については、今後も利用するのならば、来年度、全学年で見直し検討をしたほうが良い。</li> </ul>

令和3年度研修振り返り

【 中学年 】ブロック

内容	成果	課題
振り返りの電子化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工の作品でこだわったところやがんばったところを撮影し、振り返りをする事ができた。</li> <li>・理科では、予想カードを色分けしたり、その後振り返りカードを作らせたりした。</li> <li>・マット運動や跳び箱、縄跳びの運動を録画することで自分の動きを振り返らせる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の学習で振り返りの電子化をする事は少なかった。</li> </ul>
授業スタイルの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ課題をもって次時の授業にのぞんだ時は、話し合いや解決実験などに時間を費やせた。</li> <li>・どの児童にもより理解しやすいように学んだ内容を掲示物として残し、それを見ながら児童が主体的に学べる環境づくりをした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち帰らせて調べ学習ができれば、授業の時間をもっと使える。</li> <li>・タブレット端末を家に持ち帰らせて調べ学習をさせたい。それをもとに授業を進めたい。</li> </ul>
ICT 活用 学びの系統表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの系統表に従って指導することができた。</li> <li>・地球温暖化防止の発表や都道府県の調べ学習等で十分にICTを活用することができた。</li> <li>・拡大することでどの児童にも理解しやすい。</li> <li>・教材共有も楽。理科の実験などを録画することで何度も振り返りに使うことができた。</li> <li>・プレゼンのような発表も繰り返し作り直すことで見やすく伝えやすい資料も作成できた。</li> </ul>	<p>主語と述語に気を付けながら読むことができない児童がいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用を目的とすると各教科の授業の本質を見失ってしまう。ICTはあくまでも手段であることを認識するべきである。</li> <li>・3年生はどうしてもパソコン教室のようにPCの使い方とローマ字打ちなどの練習は必須だった。</li> </ul>

令和3年度研修振り返り

【 高学年 】ブロック

内容	成果	課題
振り返りの電子化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で取り組んでみたが、訂正しやすいので、児童も教師もやりやすい。</li> <li>・振り返りの書き方(型)の提示によって、意味ある文章になった。文づくりの苦手な子には特に良い。</li> <li>・振り返った内容を次の授業で共有しやすかった。</li> <li>・振り返りカードをつなげて提出していくと、これまでの内容が分かり、復習になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数は、図形単元以外では振り返りのためだけにPCを開くことが多くなり、使いにくい。</li> <li>・体育の記録で使いたい動画は、カメラの性能が低く、使いにくい。運動場ではwi-fiが繋がらないので使いにくい。</li> <li>・ロイロノートのカードが増えてきた時のまとめ方は指導する必要がある。</li> </ul>
授業スタイルの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間だけで考えるのが難しい子には、家でやってくるのはよかった。</li> <li>・一人一台でマイク付きイヤホンがあると、できることが広がる。(声での振り返り、各自で動画検索と動画視聴、音読の確認など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心ある子とない子の差があり、やってくる内容にも差ができる。</li> <li>・下位の子は何をしたらいいのかわからない。</li> </ul>
ICT活用 学びの系統表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用で、表現・コミュニケーションは、ICTを使わない時と比べてよくできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表の内容をじっくり取り組むことができなかった。PCの使い方を覚えることに一生懸命だった。</li> </ul>

令和3年度研修振り返り

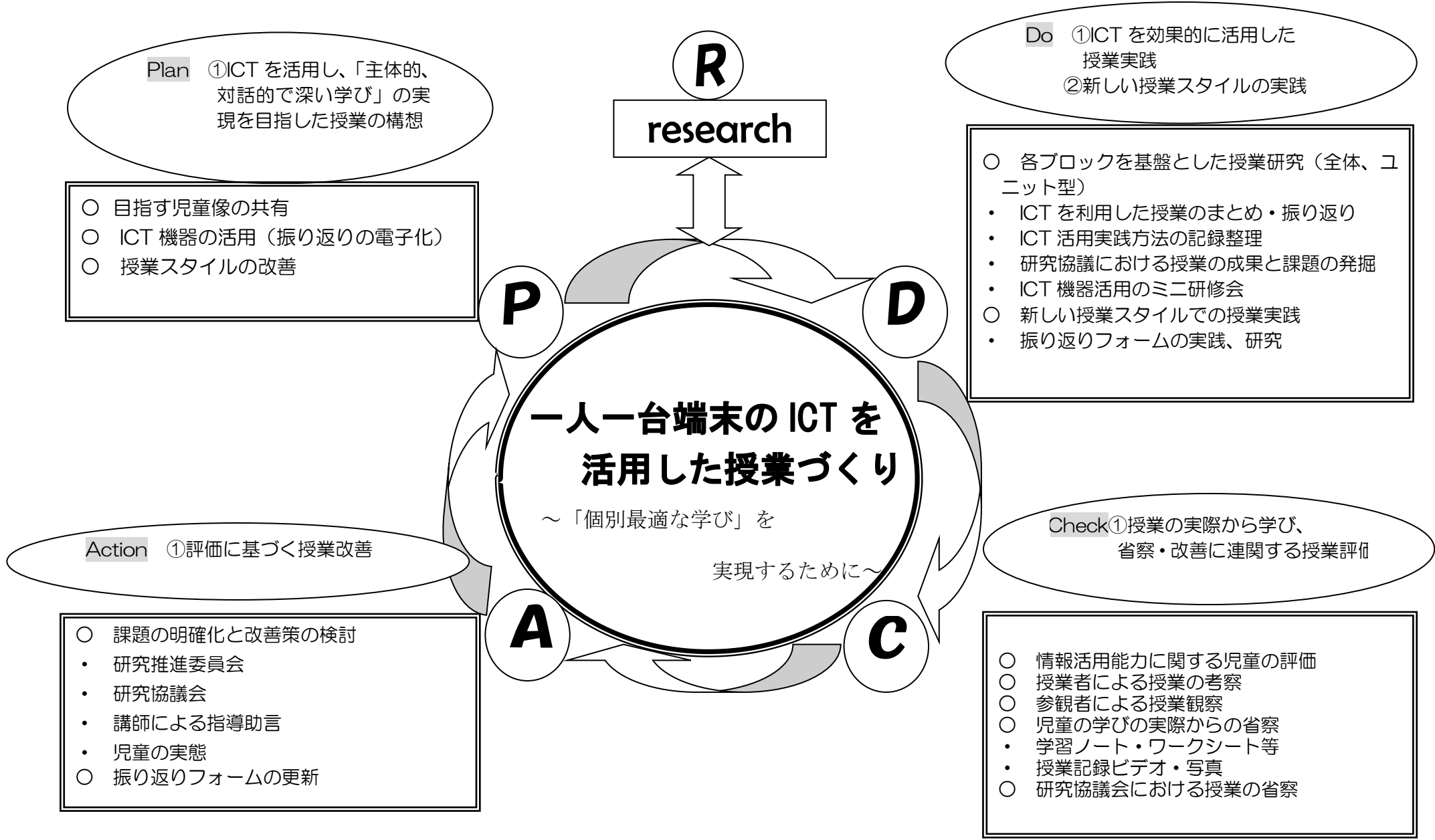
【 特別支援 】ブロック

内容	成果	課題
振り返りの電子化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のあしあとを残すことができ、成長が分かる。</li> </ul>	<p>特別支援では、個別指導なので他の児童との共有は難しかった。同じめあての時には、交流学級の児童と共有できるとよい。</p>
授業スタイルの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のまとめをロイロノートでまとめることで、書くことが苦手な児童も取り組みやすかった。</li> <li>・作文指導では有効だった。（作文用紙に直接では難しい児童も、取り組みやすい。）</li> <li>・児童の実態に合わせて、ICT や紙媒体を選ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に合わせて教師もICT を活用できるよう研修をする必要がある。</li> </ul>
ICT 活用 学びの系統表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとに、どのような力を身に付けるとよいのかが分かりやすい。</li> </ul>	

## 来年度の研修について

- 研究の方向性
  - 今年度の流れを継続
  - ICT を活用し「個別最適な学び」を充実させる
- 研修体制
  - 変更なし
- 内容
  - ① 「個別最適な学び」をめざした実践
  - ② eライブラリの活用
  - ③ やまぐちっ子学習プリント（デジタル）

# (案) 令和4年度 琴芝っ子 授業改善計画



**Plan** ①ICTを活用し、「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指した授業の構想

**Do** ①ICTを効果的に活用した授業実践  
②新しい授業スタイルの実践

- 各ブロックを基盤とした授業研究（全体、ユニット型）
  - ・ ICTを利用した授業のまとめ・振り返り
  - ・ ICT活用実践方法の記録整理
  - ・ 研究協議における授業の成果と課題の発掘
  - ・ ICT機器活用ミニ研修会
- 新しい授業スタイルでの授業実践
  - ・ 振り返りフォームの実践、研究

**Check** ①授業の実際から学び、省察・改善に連関する授業評価

- 情報活用能力に関する児童の評価
- 授業者による授業の考察
- 参観者による授業観察
- 児童の学びの実際からの省察
  - ・ 学習ノート・ワークシート等
  - ・ 授業記録ビデオ・写真
- 研究協議会における授業の省察

- 目指す児童像の共有
- ICT機器の活用（振り返りの電子化）
- 授業スタイルの改善

**Action** ①評価に基づく授業改善

- 課題の明確化と改善策の検討
  - ・ 研究推進委員会
  - ・ 研究協議会
  - ・ 講師による指導助言
  - ・ 児童の実態
- 振り返りフォームの更新

# 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

## 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

## 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

## 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

## 主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

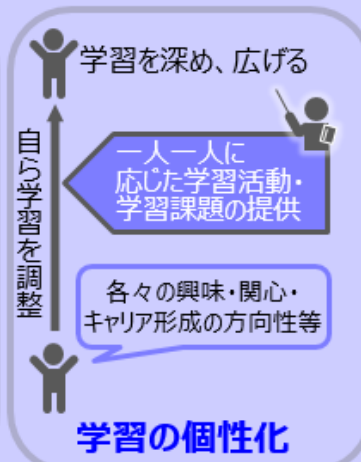
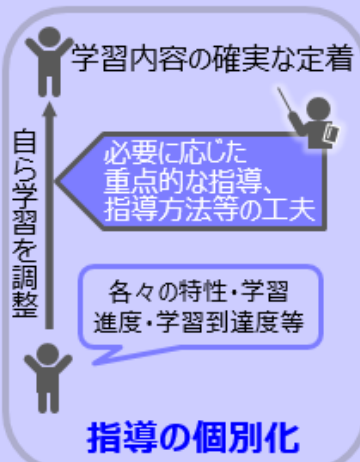
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達への支援

授業改善

一体的に  
充実

授業外の  
学習の改善

資質・能力の育成



これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようになることが求められる。

平成29,30年改訂  
学習指導要領 前文

修得主義 ・個々人の学習状況に応じて学習内容を提供 ・一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視  
の考え方を生かす

履修主義  
の考え方を生かす

・集団に対して共通に教育を行う ・一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。